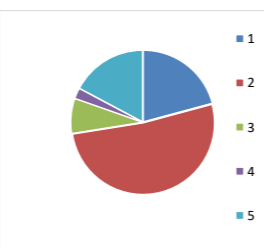
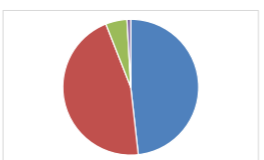
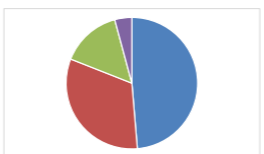
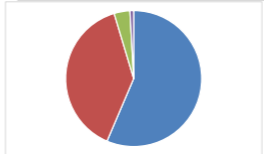
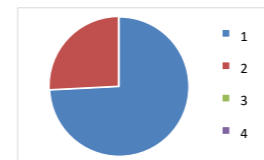


令和5年度 三国中学校 学校評価

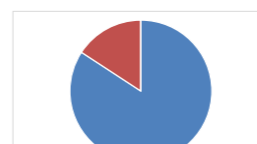
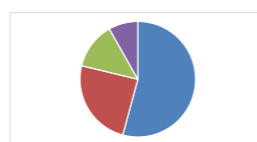
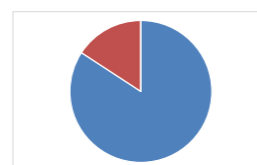
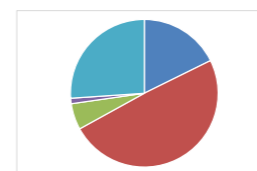
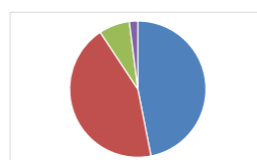
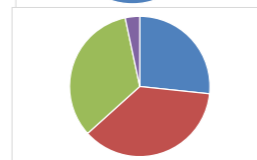
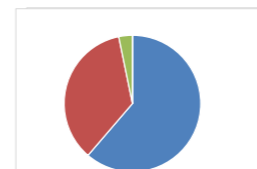
項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者		
		人数	割合					
確かな学力	①基礎・基本の徹底	アンケート（設問と回答）						
		①授業や家庭学習を通じた、基礎・基本の習得のための指導を工夫している。		計31人		A+Bが100%	100%	教職員
		A あてはまる。	23	74%				
		B どちらかといえば、あてはまる。	8	26%				
		C どちらかといえば、あてはまらない。		0%				
		D あてはまらない。		0%				
		②学校の授業にまじめに取り組んでいる。		計452人		A+Bが95%	98%	生徒
		A あてはまる。	255	56%				
		B どちらかといえば、あてはまる。	176	39%				
		C どちらかといえば、あてはまらない。	17	4%				
		D あてはまらない。	4	1%				
		③学校の宿題などの家庭学習に、毎日取り組んでいる。		計452人		A+Bが81%	90%	生徒
		A あてはまる。	220	49%				
		B どちらかといえば、あてはまる。	146	32%				
		C どちらかといえば、あてはまらない。	67	15%				
		D あてはまらない。	19	4%				
		④学校の先生はわかりやすく教えてくれる。		計452人		A+Bが94%	97%	生徒
		A あてはまる。	218	48%				
		B どちらかといえば、あてはまる。	207	46%				
		C どちらかといえば、あてはまらない。	23	5%				
D あてはまらない。	4	1%						
⑤学校は、授業や家庭学習を通して、十分な学習指導を行っている。 (プリントやワーク、チャレンジ学習での反復練習など)		計418人		A+Bが72%	81%	保護者		
A あてはまる。	87	21%						
B どちらかといえば、あてはまる。	216	52%						
C どちらかといえば、あてはまらない。	33	8%						
D あてはまらない。	10	2%						
E わからない。	72	17%						
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科で授業の最初に小テストなどの簡単な復習をしたり、適切な量の宿題を課すことで、基礎・基本の定着に力を入れた。 ○興味をひくような発問や資料の提示をすることで授業に集中できている。 ○テスト前の質問会や学習会で質問に答えるだけでなく、不定期的に質問会を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジ学習に対する意識の差が大きく、学力の向上や学習意欲の向上につなげていない生徒がいた。 ○課題の提出が遅れる生徒がおり、家庭学習への意識の差がある。 <p>○各教科の宿題に取り組む目的を説明したり、効果的な学習方法について伝えていく。</p> <p>○教員がチャレンジ学習の目的をしっかりと説明し、点検の際、適切なコメントをしたり、生徒同士で相互評価をしたりする。</p>								



令和5年度 三国中学校 学校評価

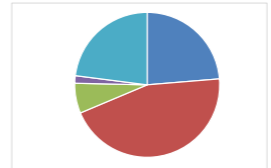
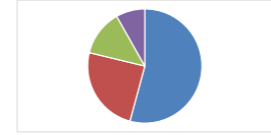
項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
		人数	割合			
②生徒が主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業の実現	①生徒が、主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業づくりに努めている。	計31人		A+Bが 97%	97%	教職員
	A あてはまる。	19	61%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	11	35%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	1	3%			
	D あてはまらない。		0%			
	②月1回(年間10回)を目標に他の教員の授業を参観し、授業に関するコミュニケーションをとっている。	計30人		A+Bが 63%	90%	教職員
	A あてはまる。	8	27%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	11	37%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	10	33%			
	D あてはまらない。	1	3%			
	③授業に前向きに参加し、他の生徒と意見や考えを伝え合うようにしている。	計452人		A+Bが 91%	94%	生徒
	A あてはまる。	212	47%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	198	44%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	33	7%			
	D あてはまらない。	9	2%			
④学校は、実験や実習、タブレットなどを取り入れ、生徒の興味や意欲を高めるような授業づくりに取り組んでいる。	計418人		A+Bが 67%	71%	保護者	
A あてはまる。	74	18%				
B どちらかといえば、あてはまる。	206	49%				
C どちらかといえば、あてはまらない。	24	6%				
D あてはまらない。	5	1%				
E わからない。	109	26%				
<p><成果> ○生徒がICTの活用に慣れてきており、タブレットを通して生徒が自分の考えを深められるようになってきている。 ○各教科ごとに教員同士の授業参観ができるようにし、その感想を伝え合ったりコミュニケーションを取ったりできるようにした。 ○全校集会やホーム・ページ等で、学校の学習指導について伝え、毎月学習方法についてお便りを発行した。</p> <p><課題> ○多忙のためか教員同士の参観ができない教員がいる。 ○学校の学習指導に関して、「わからない」と答える保護者が多い。</p> <p>○タブレットの持ち帰りを進め、ICTを使って学習に取り組める環境を整備していく。 ○授業の参観をすすめ、短時間でもお互いの授業を見合ったり、授業に関するコミュニケーションを取ったりするように促す。 ○学校評価アンケートを保護者が回答するときに、子供と学校の様子について話し合いながら回答するようにアンケートに記載する。</p>						
③ICT活用と視聴覚教育の推進、情報力活用能力育成	①ICT機器を活用した授業を週に1回以上実施している。	計31人		A+Bが 84%		教職員
	A あてはまる。	17	55%			
	B どちらかといえば、あてはまる。	9	29%			
	C どちらかといえば、あてはまらない。	4	13%			
	D あてはまらない。	1	3%			
②授業等で、タブレットを使用しての学習活動に慣れている。	計452人		A+Bが 94%		生徒	
A あてはまる。	272	60%				
B どちらかといえば、あてはまる。	155	34%				
C どちらかといえば、あてはまらない。	21	5%				
D あてはまらない。	4	1%				
<p><成果> ○視聴覚研究大会に向けて、各教科でICTの使い方の情報を交換したり、実践したりできた。 ○生徒はタブレットの活用に慣れてきており、授業で自分の考えを深められるようになってきた。</p> <p><課題> ○教科の特性や教室の環境から、ICTを使った授業を行っていくことがある。</p> <p>他校の指導主事訪問等の公開授業を積極的に参観し、ICTを使った授業設計に努める。</p>						
①「読書」の時間の確保と充実努めている。	計19人		A+Bが 100%	100%	教職員	
	1 あてはまる。	16				84%
	2 どちらかといえば、あてはまる。	3				16%
	3 どちらかといえば、あてはまらない。					0%

確かな学力



令和5年度 三国中学校 学校評価

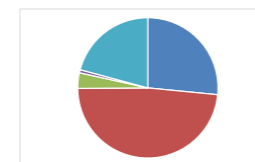
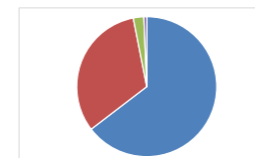
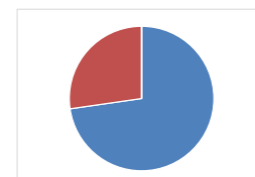
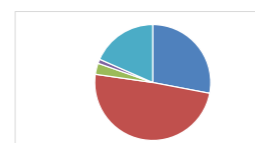
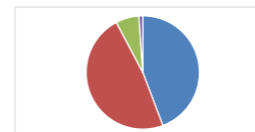
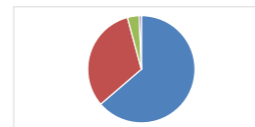
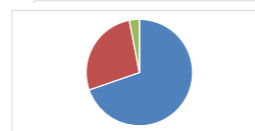
項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者		
		人数	割合					
④読解力育成を目指した読書活動の推進	②「読書」の活動に集中して取り組み、月1冊以上のペースで本を読んでいる。	4 あてはまらない。		0%	A+Bが 79%	85%	生徒	
		計452人						
		1 あてはまる。	245	54%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	111	25%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	59	13%				
		4 あてはまらない。	37	8%				
		③学校は、読書の時間の確保、毎月のホームページなどを通して、本に親しむ取り組みを行っている。	計418人					
		1 あてはまる。	99	24%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	188	45%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	28	7%				
	4 あてはまらない。	7	2%					
	5 わからない。	96	23%					
	<p><成果> ○読書カードの記入と図書委員会のイベントが増えたことによって、生徒たちの本を読む機会が増えた。</p> <p><課題> ○図書館便りにて新刊図書やおすすめの本を紹介してきたが、保護者におたよりを見せていない生徒がいることも考えられる。 図書館の本を利用する、しないに関わらず図書館を調べ学習の場にする等の機会が少なく、図書館を利用しない生徒もいた。</p> <p>○これまで通り、ホームページで図書館の取り組みなどを紹介していく。加えて、図書館便りを生徒に配る際、新刊図書の紹介や、読書に関する啓発を積極的に担任から発信していくことで、保護者に少しでも伝わるように努めていく。また、本年度行った読書バトルや読書カード等も引き続き継続する。</p>							



令和5年度 三国中学校 学校評価

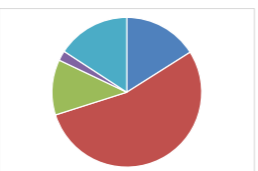
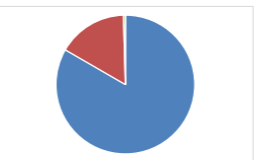
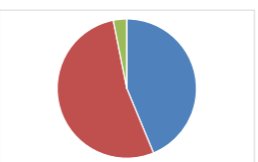
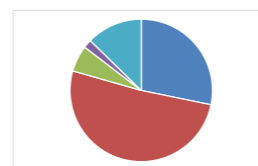
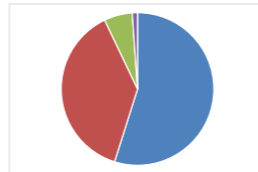
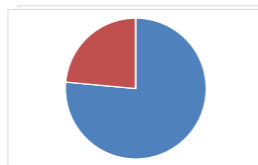
項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
		人数	割合			
①挨拶を励行し、時間を守る礼儀正しい生徒の育成	①挨拶、時間を守った学校生活についての指導を積極的に行っている。	計33人		A+Bが97%	100%	教職員
	A あてはまる	23	70%			
	B どちらかといえば、あてはまる	9	27%			
	C どちらかといえば、あてはまらない	1	3%			
	D あてはまらない		0%			
	②自分から、進んで挨拶を行っている。	計452人		A+Bが96%	95%	生徒
	A あてはまる	288	64%			
	B どちらかといえば、あてはまる	145	32%			
	C どちらかといえば、あてはまらない	16	4%			
	D あてはまらない	3	1%			
	③時間を守って学校生活を送ることができている。	計452人		A+Bが92%	92%	生徒
	A あてはまる	200	44%			
	B どちらかといえば、あてはまる	217	48%			
	C どちらかといえば、あてはまらない	30	7%			
	D あてはまらない	5	1%			
	④学校は、挨拶や時間を意識した学校生活の指導を十分行っている。	計418人		A+Bが77%	79%	保護者
A あてはまる	117	28%				
B どちらかといえば、あてはまる	206	49%				
C どちらかといえば、あてはまらない	13	3%				
D あてはまらない。	5	1%				
E わからない。	77	18%				
<p><成果> <input type="checkbox"/> 三本柱を定期的に意識づけてきたことが、教員と生徒の判定結果として現れている。 <課題> <input type="checkbox"/> 保護者の判定結果が目標指数より大幅に低くなっている。 <input type="checkbox"/> 保護者の設問が答えづらい内容である。 <input type="checkbox"/> 学校公開の時間を増やしたり、保護者が答えやすい設問にしたりする。</p>						
②無言清掃を通し、自分を見つめ、心を磨く生徒の育成	①毎日の清掃活動（無言清掃）に、生徒が時間いっぱい意欲的に取り組む指導を十分に行っている。	計33人		A+Bが100%	100%	教職員
	A あてはまる	24	73%			
	B どちらかといえば、あてはまる	9	27%			
	C どちらかといえば、あてはまらない		0%			
	D あてはまらない		0%			
	②時間いっぱい無言清掃に取り組むことができている。	計452人		A+Bが97%	97%	生徒
	A あてはまる	292	65%			
	B どちらかといえば、あてはまる	146	32%			
	C どちらかといえば、あてはまらない	11	2%			
	D あてはまらない	3	1%			
	③学校は心を育てる教育の一環として、清掃活動（無言清掃）に十分取り組んでいる。（おしゃべりや怠けを我慢する心、皆のためにがんばる思いやりの心、汚れや周りの様子に気づく心、校舎への感謝の心など）	計418人		A+Bが75%	78%	保護者
	A あてはまる	111	27%			
	B どちらかといえば、あてはまる	202	48%			
	C どちらかといえば、あてはまらない	15	4%			
	D あてはまらない。	3	1%			
	E わからない。	87	21%			
<p><成果> <input type="checkbox"/> 三本柱を定期的に意識づけてきたことが、教員と生徒の判定結果として現れている。 <課題> <input type="checkbox"/> 保護者に対する設問内容が答えづらいので、判定結果が低いと予想される。学校で指導していることが、家庭でも発揮できるような設問に変更した方がよい。 <input type="checkbox"/> 無言清掃の様子をホームページや生徒指導部通信に記載して情報を発信する。 <input type="checkbox"/> 無言清掃の様子を知ってもらうために、学校公開や保護者会などで積極的に公開する。</p>						

豊かな人間性



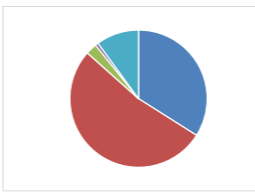
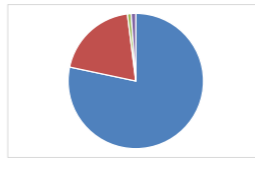
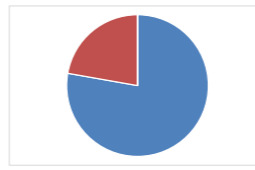
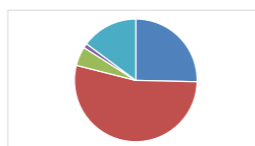
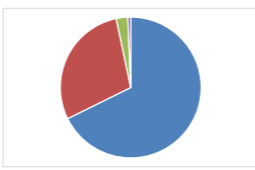
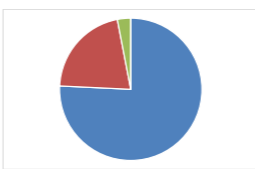
令和5年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者		
		人数	割合					
豊かな人間性	③いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応	①いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を常に意識し、迅速なチーム対応に努めている。	計34人		A+Bが100%	97%	教職員	
		A あてはまる	26	76%				
		B どちらかといえば、あてはまる	8	24%				
		C どちらかといえば、あてはまらない		0%				
		D あてはまらない		0%				
		②いじめを許さず、いじめに気づいたときはすぐに誰かに相談するようにしている。	計452人		A+Bが93%	93%	生徒	
		A あてはまる	248	55%				
		B どちらかといえば、あてはまる	172	38%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	27	6%				
		D あてはまらない	5	1%				
		③学校はいじめや不登校の未然防止や早期発見のために、定期的に生徒・保護者へのアンケートを行い、早期対応に努めている。	計418人		A+Bが79%	81%	保護者	
		A あてはまる	118	28%				
		B どちらかといえば、あてはまる	214	51%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	25	6%				
		D あてはまらない。	8	2%				
E わからない。	53	13%						
<p><成果> ○生徒に対する定期的なアンケートの実施と、教育相談の時間を多く設定していることが、高い判定結果となっている。</p> <p><課題> ○保護者の判定結果が低い。アンケートを定期的に行っているものの、保護者には、それが早期発見、未然防止につながると思ってもらえなかった。</p> <p>○可能であれば、教育相談や、子どもの声調査の回数をさらに増やせるとよい。 ○アンケートの趣旨やアンケート結果、学校の取組の紹介を強化する。</p>								
豊かな人間性	④ネット社会における情報モラルの向上	①インターネットや携帯電話、タブレット、ゲーム機器などの適切な使用について、指導を十分行っている。	計32人		A+Bが97%	94%	教職員	
		1 あてはまる。	14	44%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	17	53%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	1	3%				
		4 あてはまらない。		0%				
		②インターネットや携帯電話、タブレット、ゲーム機器などについて、安全で適切な利用のしかたを理解し、安全に利用している。	計452人		A+Bが99%	99%	生徒	
		1 あてはまる。	346	83%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	101	16%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	4	0%				
		4 あてはまらない。	1	0%				
		③学校は、インターネットや携帯電話、タブレット、ゲーム機器などの適切な使用について、十分指導を行っている。（情報モラル教室の実施、我が家のスマートルール作成・保護者会での振り返りなど）	計418人		A+Bが70%	73%	保護者	
		1 あてはまる。	67	16%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	226	54%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	50	12%				
		4 あてはまらない。	9	2%				
5 わからない。	66	16%						
<p><成果> ○各教科や道徳、担任からの定期的な指導により、生徒の判定結果は高い。</p> <p><課題> ○PTAの協力も得て、スマホの使い方について動画を配信しているが、保護者の判定結果が低い。 ○生徒の判定結果が良いが、SNSによるトラブルが起こっている。</p> <p>○生徒には学活や特別活動、道徳の時間等を利用して、SNSの利用についての指導を強化する。 ○保護者には、スマホやSNSの利用についての注意事項やトラブルの事例など情報をさらに発信する。 ○保護者対象のSNS利用についてのアンケートを行い、結果を保護者に発信する。</p>								



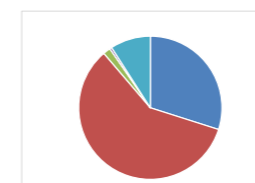
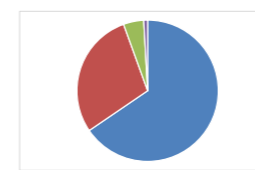
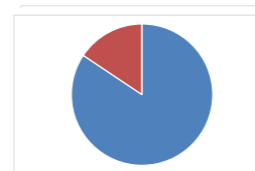
令和5年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者	
		人数	割合				
健やかな体と心	① 道徳授業の充実、人権を尊重し、相手を思いやり、協力する学級・学校づくり	① 日々の教育活動を通して、望ましい人間関係ができるような集団づくりに努めている。	計33人		A+Bが97%	97%	教職員
		1 あてはまる。	25	76%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	7	21%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	1	3%			
		4 あてはまらない。		0%			
		② 学校生活の中で、相手を思いやり、他の子と協力して様々な活動に取り組んでいる。	計452人		A+Bが97%	98%	生徒
		1 あてはまる。	306	68%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	131	29%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	12	3%			
		4 あてはまらない。	3	1%			
		③ 学校は、人権を尊重し、思いやりの心や協力する気持ちを育てる集団づくりを行っている。(学校行事、学年行事などのさまざまな機会を通して、よりよい集団づくりに取り組んでいる。)	計418人		A+Bが79%	83%	保護者
		1 あてはまる。	106	25%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	224	54%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	21	5%			
		4 あてはまらない。	5	1%			
5 わからない。	62	15%					
<p><課題> ○ 昨年の反省を受け、今年は保護者の設問文を具体的に記したが、判定結果に差異がみられなかった。 ○ 保護者の判定結果から、「わからない」を選んだ方が多いため、その理由を聞いてはどうか。</p> <p>○ 継続して、学校の様子を発信する。 ○ 保護者への設問分の工夫を行う。</p>							
健やかな体と心	② 体験活動、ポジティブ教育を取り入れた、道徳・特別活動の充実	① 道徳や特別活動、短学活の時間を活用し、一人一人が安心でき、所属感のある学級づくり、集団づくりに努めている。	計18人		A+Bが100%	100%	教職員
		1 あてはまる。	14	78%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	4	22%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。		0%			
		4 あてはまらない。		0%			
		② 学校には、自分の役割や居場所がある。(教室・委員会・部活動など)	計452人		A+Bが98%	99%	生徒
		1 あてはまる。	354	78%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	89	20%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	4	1%			
		4 あてはまらない。	5	1%			
		③ 学校は、学校生活を通して、よりよい集団づくりに取り組んでいる。(授業・委員会・学校祭・部活動など)	計418人		A+Bが87%	90%	保護者
		1 あてはまる。	142	34%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	220	53%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	11	3%			
		4 あてはまらない。	3	1%			
5 わからない。	42	10%					
○ 概ね良好である。							
○ 各学級担任、部活動顧問、教科担任などによる細やかな生徒一人ひとりの「みとり」を継続して行う。							



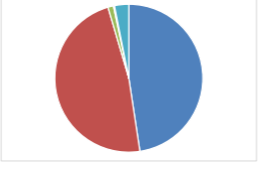
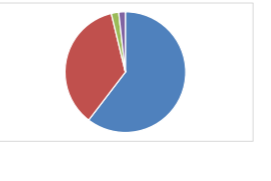
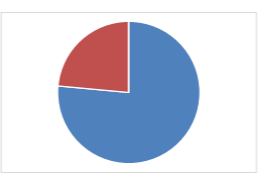
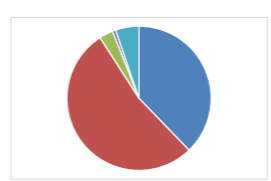
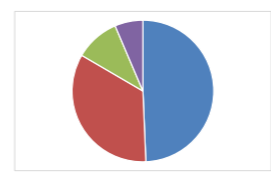
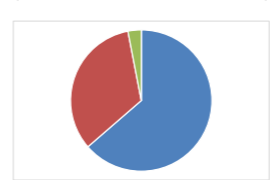
令和5年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者		
		人数	割合					
健やかな体と心	③保健・安全教育と食育による健全な身体づくり	①生徒の心身の健康に注意を払い、保健・安全教育に努めている。		計32人		A+Bが100%	100%	教職員
		A あてはまる	27	84%				
		B どちらかといえば、あてはまる	5	16%				
		C どちらかといえば、あてはまらない		0%				
		D あてはまらない		0%				
		②自分自身の心や体の健康状態に気づき、健康で安全な生活に心がけている。		計452人		A+Bが94%	98%	生徒
		A あてはまる	296	65%				
		B どちらかといえば、あてはまる	131	29%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	21	5%				
		D あてはまらない	4	1%				
		③学校は、子どもの安全確保や健康管理のための取り組みを行っている。 (交通安全教室・街頭交通指導、健康指導、保健だより・給食だよりなどの配付やホームページへの掲載)		計418人		A+Bが89%	92%	保護者
		A あてはまる	125	30%				
		B どちらかといえば、あてはまる	246	59%				
		C どちらかといえば、あてはまらない	7	2%				
		D あてはまらない。	2	0%				
E わからない。	38	9%						
○昨年に引き続き、子どもの安全確保や保健安全に留意して取り組んでおり、概ね良好である。								
○子どもの安全確保や健康管理のための学校の取り組みをホームページ等で知らせる。								



令和5年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者	
		人数	割合				
信頼される学校	①学校だより、ホームページ等による積極的な情報発信	①学校だより（学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより）やホームページ等を通して積極的に情報を発信している。	計33人		A+Bが 97%	97%	教職員
		A あてはまる。	21	64%			
		B どちらかといえばあてはまる。	11	33%			
		C どちらかといえばあてはまらない。	1	3%			
		D あてはまらない。		0%			
		②学校だより（学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより）から、今後の活動の情報を得ている。また、ホームページで活動の様子が掲載されていることを知っている。	計452人		A+Bが 83%	85%	生徒
		A あてはまる。	223	49%			
		B どちらかといえばあてはまる。	154	34%			
		C どちらかといえばあてはまらない。	46	10%			
		D あてはまらない。	29	6%			
		③学校は、教育活動を適切に伝えている。（ホームページ、安全安心メール、学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だよりなどで）	計418人		A+Bが 91%	89%	保護者
		A あてはまる。	158	38%			
		B どちらかといえばあてはまる。	222	53%			
		C どちらかといえばあてはまらない。	13	3%			
		D あてはまらない。	3	1%			
E わからない。	22	5%					
<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○配布物は紙媒体からデータ配信へ移行できている。 ○Home&Schoolアプリでの連絡が定着してきた。 ○ホームページを見ている保護者が増えてきた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページへのせるデータ作成について、検討する必要がある。 ○アプリでの配信が増え、データと紙媒体での配布を選別する必要がある。 <p>○学活や総合など、授業でホームページを見る機会を設ける。</p> <p>○全教員がホームページをupできるようになるとよい。そのための準備をする。</p> <p>○お便りについては、紙媒体での配布、Home&Schoolでの送信、ホームページにのせるものの区別をする。</p>							
信頼される学校	②家庭・地域・他校種への学校公開を充実	①学校公開の際には保護者から信頼を得ることを意識し、授業や学校行事に取り組んでいる。	計34人		A+Bが 100%	97%	教職員
		1 あてはまる。	26	76%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	8	24%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。		0%			
		4 あてはまらない。		0%			
		②学校公開（体育祭、授業参観）の時には、意欲的に取り組み、信頼される三中生となるようがんばっている。	計452人		A+Bが 96%	95%	生徒
		1 あてはまる。	273	60%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	162	36%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	9	2%			
		4 あてはまらない。	8	2%			
		③学校は、学校行事や授業などの教育活動を、積極的に公開している。（体育祭や学校公開による授業公開など）	計418人		A+Bが 95%	94%	保護者
		1 あてはまる。	199	48%			
		2 どちらかといえば、あてはまる。	200	48%			
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	5	1%			
		4 あてはまらない。	1	0%			
5 わからない。	13	3%					
<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ある程度保護者の理解を得ることができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各行事での保護者の見学について、どこで見学するか場所をはっきりさせておく必要があった。 <p>○次年度も積極的に学校公開を行っていく。</p> <p>○各行事で、具体的な保護者の見学場所を提示する。</p>							



信頼される学校

令和5年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者		
		人数	割合					
信頼される学校	③「地域と進める体験推進事業」の推進により、ふるさと三国に誇りや愛着を持つ生徒の育成	①ふるさと三国や福井に愛着を持つ生徒の育成に努めている。	計31人		A+Bが100%	100%	教職員	
		1 あてはまる。	20	65%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	11	35%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。		0%				
			4 あてはまらない。		0%			
		②ふるさと三国に誇りや愛着があり、地域に役立つことをしたいと思う。	計452人		A+Bが91%	93%	生徒	
		1 あてはまる。	223	49%				
		2 どちらかといえば、あてはまる。	189	42%				
		3 どちらかといえば、あてはまらない。	33	7%				
			4 あてはまらない。	7	2%			
		③地域の活動やボランティア活動、奉仕作業等に参加している。	計452人		A+Bが67%		生徒	
		A あてはまる。	144	32%				
		B どちらかといえばあてはまる。	158	35%				
		C どちらかといえばあてはまらない。	99	22%				
			D あてはまらない。	51	11%			
		④学校は、ふるさと三国に誇りや愛着をもつ生徒を育成するための活動を、できる限り取り組んでいる。(1年総合「三国インフルエンサーになろう」、2年総合「I Love Mikuni I know Mikuni 現地調査活動」、3年総合「三国マイスター三国の魅力を発信しよう」、進路三国高校生徒との交流「ようこそ先輩」)	計418人		A+Bが84%	87%	保護者	
		A あてはまる。	157	38%				
		B どちらかといえばあてはまる。	196	47%				
		C どちらかといえばあてはまらない。	4	1%				
		D あてはまらない。	1	0%				
	E わからない。	60	14%					
<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと三国に対する生徒の意識は高い。 ○3年生の探究学習では、地域に対する生徒の意識も高まり、自ら調査しようとする姿が見られた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の活動やボランティア活動、奉仕作業に関しては、3分の1の生徒が参加していないと答えている。 <p>○「芝桜植栽」のように、地域と連携した活動への参加を増やすため、個人参加だけでなく、部活動単位での参加を促す。そのために、年度当初には日程の確認を行い、部活動での参加がしやすいように日程の調整を行う。</p>								

